

1

指示語・接続語の攻略

指導ページ P 4 ~ 17

指導のポイント

直前など、指示語の指し示す箇所をとらえ、内容を本文から読み取らせる。

接続語の意味と役割を理解し、前後の文章の関係をおさえさせる。

板書例

練習問題 1

料理「生命と戦うこと」 ほかの動植物の生命を犠牲
 食べること「生きることの本质」
 関野さんのグレートジャーニーの話

筆者の考え

「共利共生」 例「水田」など 人間「生活に有利な生態系を保つ
 生態系の維持」人間が誤る 人間の存在が脅かされる
 歴史から見る「食の確保に余裕が生まれる」
 食料生産以外の仕事ができる 文化活動が活発に

文化の形成 人間らしく生きる 食の安定した確保が必要

基本問題 2

近代社会「生活の機能を外部に委託」 公権力「個人の機能を奪う
 例 子どもの教育・ごみ処理
 さらに近年 「財政問題 公権力側が個人に機能を差し戻す傾向
 「行政が情報を公開 国民の意見を広く募る傾向

筆者の考え 大切なこと
 公権力が集めた情報の処理 結果を国民に正確にフィードバック
 個人「責任をもって発言+かかわること

基本問題 1

動物の子育ては愛情深い」 人間が自分勝手な解釈
 ローレンツのシチメンチョウの実験
 ホトトギスとウグイスの子育ての例

筆者の考え 動物「画一的・本能に従った子育て
 人間の子育て 本能を失う 人間的

基本問題 1
 (話題につなげる) 動物の親の愛情 大宮公園のサルの親の例
 【話題】 人間の親の子を育てる愛情

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P6)	問一 「ましてや」に着目。「前の事柄と比べて後に述べる事柄はさらに、いっそう」という意味の言葉であることから判断。 問二 直後に述べられた筆者の経験を指している。 問三 直後の「自分勝手」に着目。この場合の「自分」とは人間なので、人間の考え方を中心にしてその事柄を見る、ということを読み取らせる。 問四 直後の形式段落である実験によりその意味が明らかにされていることを読み取らせる。48・49行目に注目。 問五 直前の部分に注目。
基本問題 2 (P8)	問一 1 = 後に例が述べられている。 2 = 違う例をあげている。 3 = 対立する内容。 問二 19・20行目に注目。 問三 個人からさまざまな機能を奪ったものは何かを読み取らせる。6行目及び16行目に注目。 問四 財政問題に着目。大きな政府では個人の機能の多くを公権力が担うから、費用が必要となってくるのが推量できる。 問五 直前の形式段落に着目。 問六 筆者の考えを読み取ることから、最後の段落に着目。
練習問題 1 (P10)	問一 1 = 直前部分の内容を後の部分が別な表現で言い換えている。 2 = 別の例をあげている。 3 = 前後で対立する内容となっている。 問二 直後の部分の水田の例から理解させる。 問三 生態系の維持について誤った方法を行うことによって となることから、地球環境を狂わせてしまうことによって引き起こされる事態が記述されている部分に着目。79行目に注目。 問四 直前の部分に着目。

指導のポイント

指定語句のある記述問題では、指定語句を手がかりに答えをまとめ、説明させる。

指定字数のある記述問題では、指定字数に合わせて答えを整理し、原則として指定された字数の八割以上を書かせる。

板書例

基本問題 1

連合野「各種の情報を高度に読み取る」

・生の情報

下等な生物「直接的に行動」

人間「組み合わせさせて高次の感覚 連合野が発達しているため」

しかし

連合野の発達によるマイナス面「腐敗の可能性さえ許せない潔癖症」

動物としては異常「動物としての自分を忘れすぎる」

筆者は批判的

基本問題 2

「際」の意味

「髪が生え際」「波打ち際」「水際」「いまわのきわ」⇒危ない場所

「際疾い」「敷居・閾」「クリティカルの語源」⇒力の沸騰する場所

「際」「閾」の意識 いまの建築「境界がぼんやり」

⇒「自他」「内外」「公私」の境 問いなおされた

「からだの膨張」について

⇒からだの持つ能力が道具や装置で延びる⇒自分をこえた知覚

「反対」⇒委縮⇒からだの内側に縮こまる

「自我」の解放・消失の感覚

筆者の考え

じぶんの殻をやぶりたい気持ち・縮こまりたい気持ちが人にはある

⇒生きているということ

練習問題 1

・「ふしぎ」⇒心の平静を乱す

解決策は？ 「ふしぎ」を心に収める⇒「わかった」という体験

・「ふしぎ」「あたりまえ」

ところが

「あたりまえ」を「ふしぎ」に思ふ人の追究⇒人類に対する貢献

「ふしぎ」と人間が感じるのは素晴らしい

一方で

「ふしぎ」を自分の力で心に収めない人 平安に生きている人の心を乱す

⇒「嫌われ者」になる

・子どもの「ふしぎ」に対する「納得」の仕方

×「正しい」知識の供給など

自分の気持ちも込められた答⇒満足

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P20)	<p>問一 直前の部分に注目。「生の情報」が「行動」におよぼす作用を読み取らせる。</p> <p>問二 直前の部分に着目。なぜそうできるのかを二つ後の段落から読み取る。</p> <p>問三 54行目に着目。不要部分を削って答える。</p> <p>問四 筆者は連合野が生み出す高度な情報に頼りすぎている人間に対して批判的である。その記述を読み取り、まとめる。</p>
基本問題 2 (P22)	<p>問一 直前の「際」についての記述を参考にさせる。</p> <p>問二 「閾」という語に注意して、直前の部分に注目。</p> <p>問三 「物質」に着目。46行目に注目。</p> <p>問四 ・を含む形式段落は、書き出しの語「たとえば」から直前の形式段落でのべられたことの具体的な例がのべられていることがわかる。直前の形式段落に着目。52行目に注目。</p>
練習問題 1 (P24)	<p>問一 「ふしぎ」を「心に収める」=「ふしぎ」を解決する。傍線より前の文章から該当箇所を探させる。</p> <p>問二 直前の形式段落に着目。</p> <p>問三 傍線部直前の指示語に着目。それが指し示す箇所をその指示語以前の部分から探させる。</p> <p>問四 直後の形式段落で説明されているので、それをまとめる。</p> <p>問五 82、83行目に着目。</p>

3

書きぬき・空欄補充の攻略

指導ページ P 32 ~ 45

指導のポイント

書きぬき問題では、問題文をよく読んだうえで、指示通りに書きぬく必要があることを理解させる。

空欄補充問題では、前後の文脈などから判断して、空欄に合う言葉を選ばせる。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>サククラ = 聖木 = 田の神 下りてくる木 農作業の目安</p> <p>サククラの木の下 = 豊作の祈り = 神と「共食」</p> <p>昔の日本人々 きつい作業 = 志気を高める・団結</p> <p>=</p> <p>現代のサラリーマン 花見 = 昔と同じ</p> <p>ヤマザクラ = 開花 = まちまち</p> <p>ソメイヨシノ = 人が作ったサククラ</p> <p>開花 = いっせい = 同じ遺伝子</p> <p>サククラの花 = 生きるエネルギーの美</p> <p>お花見でさわぐ 生きる喜び のんきな時代</p> <p>=</p> <p>いつまでも続いてほしい</p>	<p>基本問題 2</p> <p>「能力」 心理学の立場から整理</p> <p>「能力」の意味 = 物事をなし得る力</p> <p>「素質」の意味 = 生まれつきもっている性質</p> <p>「能力」を高める = 「素質」に加えて「勉強」が必要</p> <p>「素質」 = 見ることができない = 「能力」としてあらわれる</p> <p>「勉強」した結果 = 発見できる</p>	<p>基本問題 1</p> <p>自転車屋</p> <p>洋平 = 友だちとサイクリングに行く 新しい自転車 ほしい</p> <p>中古のサイクリング車 = 買ってもらえるかもしれない</p> <p>母親との会話 = 母親から自転車を買うことをとめられる</p> <p>洋平 = 自分の思いどおりにならない くやしい</p> <p>中古のサイクリング車 借りよう</p> <p>自転車屋</p> <p>自転車屋のおじさん = 中古の自転車を貸してくれない 母親と同じ</p> <p>洋平 = 反発</p>
---	--	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P34)	問一 1行目の「おじさん」の言葉に注目。 問二 17～19行目と26・27行目に注目。 問三 40・41行目に注目。
基本問題 2 (P36)	問一 何かできる力 = 「能力」という視点から、6行目に着目。 問二 《「能力」があるといたい = 「能力」がないと判りたくない》という内容を選ばせる。 問三 先天の対義語。 問四 直後の部分で内容を説明している。 問五 《「素質」に「勉強」が加えられて「能力」として発揮される》という内容から判断。 問六 「素質」 = 「勉強をして能力となって表現されること」に注意。最後の文に注目。
練習問題 1 (P38)	問一 直前の部分に注目。 問二 1 = 直前の部分に注目。 2 = 「いっせいに花が咲くこと」と対比。 問三 直後の「期間」という語をヒント。36行目に注目。 問四 41～64行目に着目。 問五 55・56行目に着目。 問六 「いっせいに散っていくソメイヨシノ」の特性が「ヤマザクラ」には見いだせない価値観をもたらしたことを66・67行目に注目してとらえる。 問七 75～79行目に注目。

4

選択肢の攻略

指導ページ P 46 ~ 59

指導のポイント

選択肢と本文とを照らし合わせる。

正答以外の選択肢について、どこが誤っているかを検討させる。

板書例

基本問題 1

親しい相手に対してこそ寛大になれない なぜか？
 例 ヤマアラシ・ジレンマ
 身を寄せ合つとヤマアラシは温かい お互いのトゲで相手を突き刺してしまう
 (「適切な距離を保つ」までがこの言葉の意味だが、本文中での主な意味は右記)
 人と人との心理的距離をめぐる葛藤を象徴
 人間も関係が深まるほど衝突が多くなる

自他未分化な心理的一体感の世界 心地よい なぜか？

みんなが自分をわかってくれていると信じているから つまり

「個別性の自覚」ができていない 異なる他人を許せない思いを抱きがち

筆者の提案
 …逆の立場で考える

相手は自分と違う 「仕方ない」とあきらめること

基本問題 2

「夕子」「愛」を連れて自転車の二人乗り

「夕子」 手帳 「あの子」に届けたい 他人に知られたくない

「あの子」を思つと胸がどきどきする気持ち

自転車の転倒

「愛」 けがをする 家に帰りたいという「愛」

「夕子」 「あの子」の家に手帳をもつていきたい 強い気持ち

練習問題 1

戦後の日本 「個性」の尊重、「個性重視」の教育…それは本当か？

「個性」…先人たちの努力によりヨーロッパから輸入、翻訳された考え方

個性を発揮 我々も努力と時間が必要だった

しかし 言葉だけが独り歩き 結果

誰でも個性的な人間になれるという幻想

「わがままな利己主義や心の萎縮を生み出す

筆者の提案 「個性」のかわりとなる言葉…「ひとり」

「ひとり」…深く、豊かな広がりを持つ古代の日本の言葉 例『万葉集』

しかし 若者は「ひとり」を恐れる

「ひとり恐怖の時代」 × 個性的な人間 無個性なヒトの群

筆者の主張 …個性的な人間が生まれるためには？

「ひとり」に耐え、孤独を楽しみ、人間関係を深める

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P48)	問一 直後の指示語がどの部分を指すかを読み取らせる。 問二 次の形式段落に説明が述べられていることに着目。 問三 第9・14段落に述べられている「個別性の自覚」の説明を読み、どのようにするべきか考えさせる。
基本問題 2 (P50)	問一 「夕子」が「愛」に話をした内容をおさえさせる。5～7行目に注目。 問二 直後の「愛」の言葉から、「行かない」の反対の内容を選ばせる。 問三 「愛」にとって自転車に乗っている状態は、転倒する前と変わらないにもかかわらず、動かなくなったのはなぜなのかを読み取らせる。「夕子」が「愛」に動かないことを要求するのに示した条件とは何か。66～74行目に注目。
練習問題 1 (P52)	問一 1 = 直前の指示語が指す箇所。 2 = 言い換えられているのでその直前の内容に着目。 問二 直後の文の文末が理由を示す「からです。」になっていることに着目。 問三 「ひとり」という言葉が出てきた第6段落に着目。 問四 最終段落で筆者が述べている心配が払拭された場合、どうなるかを読み取らせる。

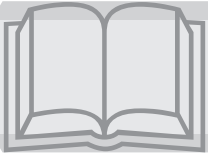
指導のポイント

設問文から問題の意図を読み取り、どのような答えを求めているのかを正確にとらえさせる。
 字数制限の有無や、与えられた解答欄の大きさなど、問題に応じて解答をまとめさせる。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>依子 〓 友だち・梢、その妹・多美の家にあずけられる 家族のことが原因</p> <p>旅行の話 飛び跳ねて喜ぶ多美 〓 「うさぎ」みたい</p> <p>依子 〓 多美が「うさぎ」に見える不思議 いろいろなことが不思議</p> <p>梢と旅行の話</p> <p>依子 〓 小学生の時 〓 北海道への一人旅 〓 楽しく感じなかった 〓 移動しただけ</p> <p>北海道に行くより、今の方が旅行気分</p> <p>梢・多美 〓 依子の気持ちがわからない 受け入れる</p>	<p>基本問題 2</p> <p>浄林寺のほおずき市 〓 「大ばあちゃん」が亡くなって三週間後</p> <p>「ゆい子」 〓 境内へかけこんだ ほおずき市をはやく見たい 〓 楽しい</p> <p>「杉原健太」 〓 店の手伝い 会う</p> <p>「大ばあちゃん」を見かける</p> <p>〓 つすべに色の「かさ」 〓 楽しそう 〓 ゆうれいらしくくない</p> <p>おどろく</p> <p>「大ばあちゃん」にちがいない</p> <p>「杉原健太」 〓 「ゆい子」の話を信じる</p>	<p>基本問題 1</p> <p>健全な精神 〓 健全な身体</p> <p>本来の意味 〓 心と体の両立をのぞむことわざ</p> <p>ことわざ 〓 「才子多病」の話・例スポーツ選手</p> <p>精神的活動 〓 知的活動</p> <p>ある秀才の話・ある小学生の話</p> <p>健全な頭の働き 〓 健全な体 〓 よい体調</p>
--	---	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など	
基本問題 1 (P62) 問一 問二 問三 問四 問五	直前の部分に注目。 直後の形式段落に注目。「ある」という語の解釈についての説明に着目。 17行目の「立派な～」という表現に着目。これは、話題としている「ことわざ」の語句を言い換えたもの。よって「ことわざ」の表現を入れる。 スポーツ選手と勉強について述べられている直後の内容から推量。 第7段落から文章の最後に注目。	
	基本問題 2 (P64) 問一 問二 問三 問四 問五	かけこんでいく様子から、早く見たいという気持ちを読み取らせる。 直後の言葉は「杉原健太」から「ゆい子」に対してむけられたものであることから推量。 ・ = いずれも、直後の部分に着目。 61～63行目の「杉原健太」の発言に、「ゆい子」も同意している。なぜ、「ゆい子」がそのように思ったかを読み取らせる。 「ゆい子」が真剣に言っているので、「うそ」ではないと思った「杉原健太」の気持ちを読み取らせる。
	練習問題 1 (P66) 問一 問二 問三 問四 問五	直前の部分に注目。 4・5行目に注目。 「普通では考えられない」ことが直後の部分に描かれている。 「けれど」に着目。「贅沢」=「いいもの」を否定している部分を見つけさせる。78行目に注目。 聞こえるように言っているということは、「私」に内密にしようという意図が本当はないことから、「私」のことを、否定していない気持ちを読み取らせる。



問一

- A "そこ"の指示する内容 Aは同じ内容を説明
- "島のことしか知らない・地球について想像もできない"
- "自分のことだけ考えて、生活できる" EはAの後
- B "しかし"＝直前の内容と対立する内容
- の内容＝《「現代」の私たち＝宇宙 限られた情報 》(しかし) 快適に生活＝「島」の住人と同じ
- 対立する内容＝「宇宙について『現代』に生きる私たちは知っている」
- "はDの後
- C "しかし"＝直前の内容と対立する内容
- の内容＝《「島」の住人＝「太陽・気象」を知る 快適な生活》
- 対立する内容＝「島のことしか知らない」＝ AはAの後
- D "そして"＝直前の内容から話題をすすめる
- "島"の住人から「現代」に生きる私たちのことに話題がかわる
- "は「島」に住む人の話題の「A-Cの後
- E "話題を讀者に示している"＝書き出しの段落

E A C D B

基本問題2

問二

第一段落

- 生まれたての赤ん坊…泣くこと＝唯一最大の表現方法
- Bの最初「それ」からあと…「それ」＝生まれたて＝Bが続く
- Dの最後「絶対必要な表現能力」 Aの最初「これ」にくらべると絶対必要ではありません
- "の順
- Cの最後「これもやはり周囲の人が」
- A、Bで述べた「笑う」ことの説明が前提の書き方
- "C A Bよりあと

B D A C

練習問題1

問三

- "子ども"の話 対比 "大人"の場合＝Cが最初
- "大人"の場合の話：「部下」に仕事をさせる場合＝Aが次
- "部下"への接し方やメッセージ＝DかBが入る
- Bの「それでも」に注意。
- の内容＝「部下」への安全地帯 対立する内容のものが前
- DはBの前

C A D B